

# 「下水道展'18北九州」 “ひと・まち・水のおすを語ろう”に出展して

下水道展出展実行委員会委員長代行（株式会社松尾設計／顧問） 浅田廣美



## 1. はじめに

「下水道展'18北九州」の出展に際しては、平成30年4月1日より公益社団法人に移行したことを受けて「水コン協カフェ'18北九州」実行委員会を立上げ、多くの下水道関係者と下水道事業に関する様々な技術課題及び水コンの果たすべき役割等について率直に語り合うとともに、水コン協の役割・魅力を発信することにしました。

## 2. 企画・展示

展示に当たっての基本方針・コンセプトは、「水コンサルタントの役割と魅力を発信」、「上下水道の担い手として」に設定して、上下水道事業の持続・発展に貢献する担い手としての「水コンサルタント」をアピールすることとしました。

### キャッチフレーズ

ひと・まち・水の明日を考える  
—水の未来をプロデュース—  
語ろう明日の下水道

水コン協が取り組む新たな事業領域をはじめ、下水道事業の今後について下水道関係者とコーヒーを飲みながら和やかな雰囲気のもと大いに語り合う場を提供することにしました。

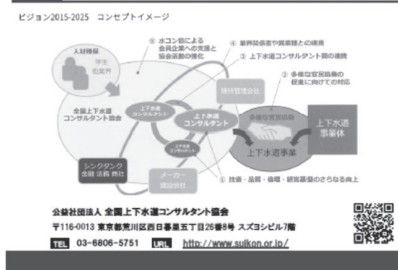
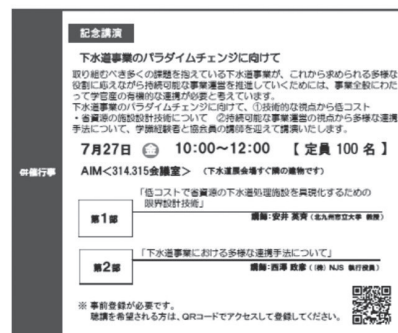
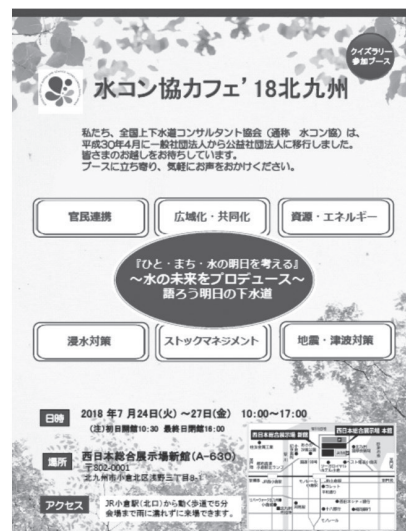
展示内容は、公益社団法人への移行、水コン協ビジョン、災害支援状況、上下水道コンサルタントの魅力、水コン協の事業活動と成果等のLEDパネル及び熊本地震の支援活動、平成30年度の技術報告等のDVD放映を行いました。

なお、例年水コン協ブースで実施している水循環ゲームについては、製作後かなりの時間も経過しており更新の必要もあるとの判断で展示を見送ることにしました。

## 3. 集客対策

今回の出展に際して、何よりも時間を割いて検討したのが集客対策でした。

案内リーフレットを2,000枚作成し九州管内の事業体を訪問して、20年ぶりに九州地方で開催されることや、水コン協ブースの展示内容、併催企画の講演会並びに技術相談の要望を聞き取り、さらに業界新聞に特集記事を掲載して集客に繋げました。



「水コン協カフェ'18北九州」リーフレット

#### 4. ブース

ブースの設営は、角地のメリットを活かして来訪者に解かりやすい解放的なスペースを確保することを前提に展示レイアウトを考えました。



図-1 ブースレイアウトのイメージ図



写真-1 ブースのイメージ図



写真-2 ブース製作途中の状況

#### 5. ブースの運営

下水道展期間中のブース運営は、延べ81名のスタッフにより①受付・接待②ブース管理③併催企画④技術相談の4班編成で24日～27日までの4日間来訪者の対応をしました。

来訪者数は、下水道展全体で31,611人、水コン協カフェにはクイズラリー参加者を含めて1,877人となり当初予定の1,000人を大幅に上回る結果となりました。

来訪者は、2日目から急に増え記念品補充、接客、クイズラリー等の対応に追われ“てんやわんや”の状況となり騒然となりました。また、水の天使の訪問でクイズラリーが一段と盛り上がった場面もありスタッフ一同、和やかな雰囲気に含まれました。

表-1 ブース来訪者一覧

	来訪者	行政関係者	コンサル関係者	コンサル以外	一般学生等
1日	273	32	49	66	126
2日	642	58	91	80	413
3日	543	63	96	66	318
4日	419	41	75	58	245
計	1,877	194	311	270	1,102

<一般・学生にはクイズラリー参加の子供を含む>

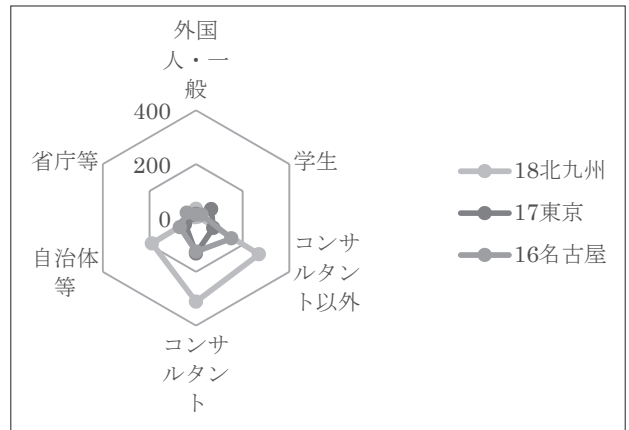


図-2 カフェ来場者の過年度比較（クイズラリー除く）



写真-3 ブース来場者その1



写真-4 ブース来場者その2



写真-5 クイズラリーの状況その1 (水の天使来訪)



写真-6 クイズラリーの状況その2

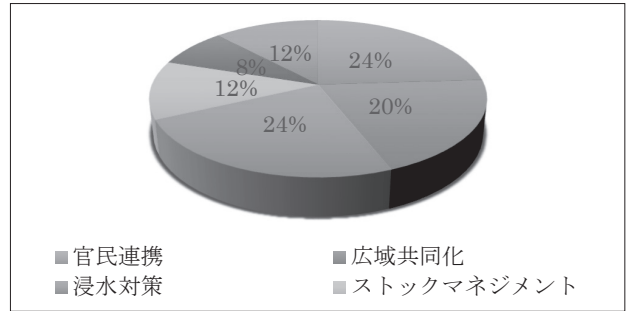


図-3 技術相談項目別比率



写真-7 技術相談の状況

水化施設の更新1件(水コンサルタントの対応力について)、下水道施設のし尿受け入れ1件(事業化のプロセスについて)等、多岐にわたりましたがスタッフの熱心な対応により30分の相談時間を上回るケースもあり熱気にあふれていました。

## 6. 技術相談

技術相談につきましては、事前に自治体の要望事項、来訪予定日等をお聞きしていましたが飛び入りもあり、当初予定を上回る25件の相談があり、テーブル確保、対応等の調整に苦慮したこともありました。

相談内容は、①官民連携6件(連携手法について、連携に向けて事前準備、龍事項について、災害支援協定について)、②広域化・共同化5件(共同化・広域化の実施事例について、管理一体化のメリット、デメリットについて、広域化、共同化の導入プロセスについて、広域化にあたって水コンサルタントの役割について)、③浸水対策6件(雨水・排水の総合管理について、浸透施設の取組み状況について、貯留施設導入の考え方について、豪雨対応について)、④ストックマネジメント3件(SM計画策定後の改築・修繕について、SM計画におけるリスク管理について、管路のストックマネジメントについて)、地震・津波対策2件(処理場の減災計画について、マンホールトイレシステムについて)、⑤施設の維持管理1件(アセットマネジメントの導入状況について)、⑥海水淡

## 7. 会員交流会

会員交流会は、27日の最終日に下水道展の会場に近接しているレストランで会員49名が参加して行われました。

下水道展の話題はもちろんの事、会員の近況や若手職員の交流も見られて楽しい時間を過ごすことが出来ました。

## 8. おわりに

下水道展の出展に当たっては、平成30年4月1日より公益社団法人に移行したことを周知するとともに上下水道事業の持続・発展に貢献する担い手としての「水コンサルタント」をアピールするため、限られたスペースを有効に活用して水コン協を如何にアピールすることができるかを重点に検討を重ねました。

ブースには、4日間で1877名の来訪があり記念品や配布資料が不足する事態も発生してスタッフ一同対応に苦慮したこともありました。

また、水コン協カフェの来訪者が技術相談及びクイズラリー参加者と重なった場合、手狭でご迷惑を掛けたケースもありました。今後、ブース小間については、展示内容を考慮して検討する必要があると強く感じました。

クイズラリーには、多くのお子様に参加されスタッフ一同で楽しんでうれしい悲鳴を上げていました。

九州支部においては、下水道展の出展に関わった経験もなく手探り状態でスタートして12回のWG及びメールによる会議等による準備を整え、この間、WGメンバーの活発な討議、運営スタッフの熱心なブース対応等、一丸となって下水道展の成功に導くための努力に感謝申し

上げるとともに、支部会員の皆様並びに水コン協本部の側面からのサポートに深く御礼を申し上げます。

7月の暑い最中での開催となり、会場内は来場者と各ブース関係者の熱気に圧倒されましたが、我が水コン協ブーススタッフも若さを前面に出して他のブースに負けない頑張りを見せていました。

水コン協カフェは、運営スタッフの熱心なブース対応等により連日多くの来訪者があり、公益社団法人に移行した『水コン協』をアピールできたのではないかと考えています。



写真ー8 スタッフ集合写真